

トロデルビ®点滴静注用 200mg
に係る医薬品リスク管理計画書

ギリアド・サイエンシズ株式会社

トロデルビ®点滴静注用 200mg に係る
医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要

販売名	トロデルビ®点滴静注用 200mg	有効成分	サシツズマブ ゴビテカン (遺伝子組換え)
製造販売業者	ギリアド・サイエンシズ株式会社	薬効分類	87429
提出年月日		令和6年11月18日	

1.1. 安全性検討事項		
【重要な特定されたリスク】	【重要な潜在的リスク】	【重要な不足情報】
骨髄抑制	肝機能障害	肝機能障害を有する患者への使用
感染症	心臓障害	
重度の下痢、腸炎	腎機能障害	
Infusion reaction	血栓塞栓症	
間質性肺疾患	腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血	
	アナフィラキシー	
	胚・胎児毒性	
1.2. 有効性に関する検討事項		
該当なし		

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要
通常の医薬品安全性監視活動
追加の医薬品安全性監視活動
市販直後調査
mTNBC 患者を対象とした特定使用成績調査 (GS-JP-569-6813)
3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要
該当なし

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要
通常のリスク最小化活動
追加のリスク最小化活動
市販直後調査による情報提供
医療関係者向け資材 (適正使用ガイド) の作成と提供

各項目の内容は RMP の本文でご確認下さい。

(別紙様式1)

医薬品リスク管理計画書

会社名：ギリアド・サイエンシズ株式会社

品目の概要			
承認年月日	2024年9月24日	薬効分類	87429
再審査期間	8年	承認番号	30600AMX00258000
国際誕生日	2020年4月22日		
販売名	トロデルビ®点滴静注用 200mg		
有効成分	サシツズマブ ゴビテカン（遺伝子組換え）		
含量及び剤形	1バイアル中サシツズマブ ゴビテカン（遺伝子組換え）200mg		
用法及び用量	通常、成人には、サシツズマブ ゴビテカン（遺伝子組換え）として1回10mg/kg（体重）を、21日間を1サイクルとし、各サイクルの1日目及び8日目に点滴静注する。投与時間は3時間とし、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降は1～2時間に短縮できる。なお、患者の状態により適宜減量する。		
効能又は効果	化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつ HER2 陰性の手術不能又は再発乳癌		
承認条件	医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。		
備考			

変更の履歴

前回提出日：

2024年10月22日

変更内容の概要：

添付資料「特定使用成績調査」の実施計画書、登録票及び調査票の初回提出

変更理由：

「特定使用成績調査」の実施計画書、登録票及び調査票内容が確定したため

1 医薬品リスク管理計画の概要

1.1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク						
骨髄抑制						
重要な特定されたリスクとした理由：						
<ul style="list-style-type: none"> 化学療法歴のあるホルモン受容体陰性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌（以下、mTNBC）患者を対象とした臨床試験、及び化学療法歴のあるホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌（以下、HR+/HER2-mBC）患者を対象とした臨床試験において、好中球減少症（好中球数減少を含む）、白血球減少症（白血球数減少を含む）、貧血（ヘモグロビン減少及び赤血球数減少を含む）、発熱性好中球減少症、血小板減少症（血小板数減少を含む）、リンパ球減少症（リンパ球数減少を含む）等の有害事象が認められている。 						
PT	IMMU-132-05/ mTNBC ^{a)}				GS-US-569-6172 ^{b)} 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC ^{c)} (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
好中球減少症	165 (64.0%)	135 (52.3%)	98 (43.8%)	76 (33.9%)	31 (86.1%)	21 (58.3%)
白血球減少症	43 (16.7%)	27 (10.5%)	27 (12.1%)	13 (5.8%)	23 (63.9%)	13 (36.1%)
貧血	103 (39.9%)	24 (9.3%)	62 (27.7%)	13 (5.8%)	11 (30.6%)	2 (5.6%)
発熱性好中球減少症	15 (5.8%)	15 (5.8%)	6 (2.7%)	6 (2.7%)	1 (2.8%)	1 (2.8%)
血小板減少症	17 (6.6%)	4 (1.6%)	28 (12.5%)	5 (2.2%)	3 (8.3%)	0
リンパ球減少症	26 (10.1%)	5 (1.9%)	13 (5.8%)	5 (2.2%)	4 (11.1%)	0
<p>a) IMMU-132-05（海外第III相試験）：mTNBC患者を対象に、本剤と医師選択治療を比較した非盲検無作為化試験（データカット日：2021/2/25）。</p> <p>b) GS-US-569-6172（国内第I/II相試験）：日本人進行固形癌患者を対象とした本剤非盲検試験（データカット日：2023/5/12）。</p> <p>c) TPC：医師選択治療（エリブリン、カペシタビン、ゲムシタビン又はビノレルビン）</p>						
PT	IMMU-132-09/ HR+/HER2- mBC ^{d)}				Overall Targeted mBC ^{e)} 本剤 (N=688)	
	本剤 (N=268)		TPC (N=249)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
好中球減少症	189 (70.5%)	138 (51.5%)	136 (54.6%)	97 (39.0%)	465 (67.6%)	349 (50.7%)
白血球減少症	38 (14.2%)	23 (8.6%)	25 (10.0%)	15 (6.0%)	118 (17.2%)	72 (10.5%)
貧血	98 (36.6%)	20 (7.5%)	69 (27.7%)	9 (3.6%)	280 (40.7%)	64 (9.3%)
発熱性好中球減少症	16 (6.0%)	16 (6.0%)	11 (4.4%)	11 (4.4%)	42 (6.1%)	42 (6.1%)
血小板減少症	17 (6.3%)	1 (0.4%)	41 (16.5%)	9 (3.6%)	59 (8.6%)	10 (1.5%)
リンパ球減少症	32(11.9%)	10(3.7%)	29(11.6%)	9(3.6%)	77(11.2%)	20(2.9%)
<p>d) IMMU-132-09（海外第III相試験）：HR+/HER2-mBC患者を対象に、本剤と医師選択治療を比較した非盲検無作為化試験（データカット日：2022/7/1）。</p> <p>e) Overall Targeted mBC 集団 (N=688)：IMMU-132-01試験（上皮性癌患者を対象としたIMMU-132 [hRS7-SN38抗体薬物複合体] 海外第I/II相試験、データカット日：2021/4/2）で本剤10 mg/kgの投与を受けたmTNBC患者及びHR+/HER2-mBC患者、並びにIMMU-132-05試験及びIMMU-132-09試験で本剤投与を受けた患者の併合集団。</p>						

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、骨髄抑制はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「1. 警告」「7. 用法及び用量に関連する注意」「8. 重要な基本的注意」「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」「11. 副作用」の項に記載して注意喚起を行う。
また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

感染症

重要な特定されたリスクとした理由：

- mTNBC患者を対象とした臨床試験、及びHR+/HER2-mBC患者を対象とした臨床試験では、以下の感染症*及び主な有害事象が認められている。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
感染症*	139 (53.9%)	25 (9.7%)	81 (36.2%)	19 (8.5%)	13 (36.1%)	1 (2.8%)
尿路感染	35 (13.6%)	1 (0.4%)	18 (8.0%)	1 (0.4%)	0	0
上気道感染	32 (12.4%)	0	7 (3.1%)	0	0	0
肺炎	13 (5.0%)	9 (3.5%)	11 (4.9%)	6 (2.7%)	0	0
敗血症	2 (0.8%)	2 (0.8%)	5 (2.2%)	5 (2.2%)	0	0

PT	IMMU-132-09/ HR+/HER2- mBC				Overall Targeted mBC	
	本剤 (N=268)		TPC (N=249)		本剤 (N=688)	
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3
感染症*	101 (37.7%)	26 (9.7%)	67 (26.9%)	12 (4.8%)	322 (46.8%)	67 (9.7%)
尿路感染	26 (9.7%)	3 (1.1%)	24 (9.6%)	2 (0.8%)	89 (12.9%)	7 (1.0%)
上気道感染	7 (2.6%)	0	4 (1.6%)	0	69 (10.0%)	1 (0.1%)
肺炎	5 (1.9%)	4 (1.5%)	9 (3.6%)	6 (2.4%)	26 (3.8%)	16 (2.3%)
敗血症	4 (1.5%)	4 (1.5%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	8 (1.2%)	8 (1.2%)

* 「感染症」は、MedDRA SOC「感染症および寄生虫症」に該当する事象

- 本剤の投与によって好中球減少症を発現し、重篤な感染症に繋がる恐れがある。

以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「1. 警告」「8. 重要な基本的注意」「11. 副作用」の項に記載して注意喚起を行う。また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

重度の下痢、腸炎

重要な特定されたリスクとした理由：

- mTNBC患者を対象とした臨床試験、及びHR+/HER2-mBC患者を対象とした臨床試験では、以下の下痢及び腸炎の有害事象が認められている。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
下痢	168 (65.1%)	30 (11.6%)	38 (17.0%)	2 (0.9%)	17 (47.2%)	4 (11.1%)
大腸炎	4 (1.6%)	1 (0.4%)	0	0	2 (5.6%)	1 (2.8%)
小腸炎	2 (0.8%)	2 (0.8%)	0	0	0	0
感染性腸炎	0	0	0	0	1 (2.8%)	0
好中球減少性 大腸炎	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0	0	1 (2.8%)	1 (2.8%)

PT	IMMU-132-09/ HR+/HER2- mBC				Overall Targeted mBC	
	本剤 (N=268)		TPC (N=249)		本剤 (N=688)	
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3
下痢	166 (61.9%)	27 (10.1%)	57 (22.9%)	3 (1.2%)	430 (62.5%)	71 (10.3%)
大腸炎	6 (2.2%)	3 (1.1%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	13 (1.9%)	6 (0.9%)
小腸炎	1 (0.4%)	0	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (0.4%)	2 (0.3%)
感染性腸炎	1 (0.4%)	0	0	0	1 (0.1%)	0
好中球減少性 大腸炎	6 (2.2%)	5 (1.9%)	0	0	7 (1.0%)	6 (0.9%)

- 重度の下痢に伴う脱水症状をきたし、急性腎障害に至った症例も報告されている。
- 本剤はSN-38から構成される抗体薬物複合体であり、下痢はイリノテカンの活性代謝物であるSN-38において知られているリスクである。

以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」「11. 副作用」の項に記載して注意喚起を行う。また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

Infusion reaction

重要な特定されたリスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験、及び HR+/HER2-mBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の infusion reaction* の有害事象が認められている。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N=258)		TPC (N=224)		全 Grade	Grade ≥3
	全 Grade	Grade ≥3	全 Grade	Grade ≥3		
Infusion reaction*	88 (34.1%)	3 (1.2%)	49 (21.9%)	3 (1.3%)	7 (19.4%)	0

PT	IMMU-132-09/ HR+/HER2- mBC				Overall Targeted mBC	
	本剤 (N=268)		TPC (N=249)		本剤 (N=688)	
	全 Grade	Grade ≥3	全 Grade	Grade ≥3	全 Grade	Grade ≥3
Infusion reaction*	71 (26.5%)	4 (1.5%)	48 (19.3%)	2 (0.8%)	227 (33.0%)	12 (1.7%)

* 「Infusion reaction」は、SMQ「過敏症（広域及び狭域）」及びSMQ「アナフィラキシー反応（広域及び狭域）」のPTを用いて特定し、発現日が投与日当日又は投与1日後の事象を含む。

- 本剤は抗体成分を含有する製剤であり、抗原に対する免疫系の過剰反応を起こす恐れがある。

以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「7. 用法及び用量に関連する注意」「8. 重要な基本的注意」「11. 副作用」の項に記載して注意喚起を行う。また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

間質性肺疾患

重要な特定されたリスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験、及び HR+/HER2-mBC 患者を対象とした臨床試験では、以下のとおり MedDRA SMQ 「間質性肺疾患（狭域）」に該当する有害事象が認められている。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
間質性肺疾患*	2 (0.8%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0	0	0
肺臓炎	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0	0	0
肺浸潤	1 (0.4%)	0	0	0	0	0

PT	IMMU-132-09/ HR+/HER2- mBC				Overall Targeted mBC 本剤 (N=688)	
	本剤 (N=268)		TPC (N=249)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
間質性肺疾患*	0	0	2 (0.8%)	1 (0.4%)	3 (0.4%)	1 (0.1%)
肺臓炎	0	0	2 (0.8%)	1 (0.4%)	2 (0.3%)	1 (0.1%)
肺浸潤	0	0	0	0	1 (0.1%)	0

* 「間質性肺疾患」は、MedDRA SMQ 「間質性肺疾患（狭域）」に該当する事象。

- 肺転移や肺毒性を有する前治療薬、放射線治療等、本剤以外の交絡因子も報告されており、本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていないものの、海外の製造販売後では、本剤との関連が否定できない間質性肺疾患が報告されている。
- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、間質性肺疾患はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「8. 重要な基本的注意」「11. 副作用」の項に記載して注意喚起を行う。
また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

重要な潜在的リスク

肝機能障害

重要な潜在的リスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の肝機能障害*及び主な有害事象が認められている。本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていない。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
肝機能障害*	64 (24.8%)	14 (5.4%)	51 (22.8%)	13 (5.8%)	7 (19.4%)	0
AST 増加	30 (11.6%)	7 (2.7%)	27 (12.1%)	6 (2.7%)	5 (13.9%)	0
ALT 増加	28 (10.9%)	3 (1.2%)	22 (9.8%)	3 (1.3%)	4 (11.1%)	0
血中 ALP 増加	17 (6.6%)	3 (1.2%)	12 (5.4%)	2 (0.9%)	0	0
低アルブミン血症	11 (4.3%)	0	9 (4.0%)	0	0	0
γ-GTP 増加	7 (2.7%)	1 (0.4%)	6 (2.7%)	4 (1.8%)	1 (2.8%)	0
血中ビリルビン増加	7 (2.7%)	3 (1.2%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0	0

* 「肝機能障害」は、以下の MedDRA SMQ に該当する事象。

- 「肝不全、肝線維症、肝硬変およびその他の肝細胞障害（狭域）」
- 「肝臓関連臨床検査、徴候および症状（狭域）」
- 「非感染性肝炎（狭域）」
- 「肝臓に起因する胆汁うっ滞および黄疸（狭域）」

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、肝機能障害はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
なし
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

心臓障害

重要な潜在的リスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の心臓障害*及び主な有害事象が認められている。本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていない。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
心臓障害*	24 (9.3%)	1 (0.4%)	14 (6.3%)	4 (1.8%)	1 (2.8%)	0
頻脈	5 (1.9%)	0	5 (2.2%)	1 (0.4%)	0	0
洞性頻脈	6 (2.3%)	0	2 (0.9%)	1 (0.4%)	1 (2.8%)	0
動悸	7 (2.7%)	0	2 (0.9%)	0	0	0

*「心臓障害」は、MedDRA SMQ「心臓障害」に該当する事象。

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、心臓障害はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
 特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
 なし
- 追加のリスク最小化活動
 医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

腎機能障害

重要な潜在的リスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の腎機能障害*及び主な有害事象が認められている。本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていない。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
腎機能障害*	21 (8.1%)	3 (1.2%)	10 (4.5%)	0	1 (2.8%)	0
排尿困難	10 (3.9%)	1 (0.4%)	4 (1.8%)	0	0	0
血尿	6 (2.3%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0	0	0
腎機能障害	0	0	0	0	1 (2.8%)	0

*「腎機能障害」は、MedDRA SOC「腎および尿路障害」に該当する事象。

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、腎機能障害はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
 特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
 なし
- 追加のリスク最小化活動
 医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

血栓塞栓症

重要な潜在的リスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の血栓塞栓症*及び主な有害事象が認められている。本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていない。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
血栓塞栓症*	17 (6.6%)	6 (2.3%)	19 (8.5%)	11 (4.9%)	0	0
肺塞栓症	7 (2.7%)	5 (1.9%)	8 (3.6%)	7 (3.1%)	0	0

*「血栓塞栓症」は、MedDRA SMQ「塞栓および血栓（狭域）」に該当する事象。

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、血栓塞栓症はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
なし
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血

重要な潜在的リスクとした理由：

- mTNBC 患者を対象とした臨床試験では、以下の腸閉塞*、消化管穿孔**、消化管出血***が認められている。本剤との関連を示唆する明確な情報は得られていない。

PT	IMMU-132-05/ mTNBC				GS-US-569-6172 第II相パート mTNBC コホート 本剤 (N=36)	
	本剤 (N = 258)		TPC (N = 224)		全 Grade	Grade ≥ 3
	全 Grade	Grade ≥ 3	全 Grade	Grade ≥ 3		
腸閉塞*	1 (0.4%)	0	0	0	0	0
消化管穿孔**	0	0	0	0	1 (2.8%)	1 (2.8%)
消化管出血***	9 (3.5%)	2 (0.8%)	3 (1.3%)	0	0	0

* 「腸閉塞」は、MedDRA SMQ 「胃腸管閉塞」に該当する事象。

** 「消化管穿孔」は、MedDRA SMQ 「消化管の穿孔（狭域）」に該当する事象。

*** 「消化管出血」は、MedDRA SMQ 「消化管の出血（狭域）」に該当する事象。

- 本剤はイリノテカンの活性代謝物である SN-38 から構成される抗体薬物複合体であり、腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血はイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
なし
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

アナフィラキシー

重要な潜在的リスクとした理由：

- アナフィラキシーに関する有害事象（PT：アナフィラキシー反応）について、IMMU-132-05（mTNBC、本剤群）試験、およびGS-US-569-6172（第II相パート mTNBC コホート）試験では認められなかったが、IMMU-132-01（mTNBC）試験では0.9%（1/108例）で認められた。
- 本剤はイリノテカンの活性代謝物であるSN-38から構成される抗体薬物複合体であり、アナフィラキシーはイリノテカンにおいて知られているリスクである。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動
- 追加の医薬品安全性監視活動
特定使用成績調査

【選択理由】

通常の安全性監視活動に加え、特定使用成績調査を通じ、日常診療における当該事象に関する発現状況を確認し、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
なし
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

医療従事者に対して臨床試験での発現状況を提供し、適正使用の理解を促進するため。

胚・胎児毒性

重要な潜在的リスクとした理由：

- 本剤を用いた生殖発生毒性試験は実施されていない。
- 本剤はイリノテカンの活性代謝物であるSN-38から構成される抗体薬物複合体である。SN-38のプロドラッグであるイリノテカンを用いた動物実験（ラット、ウサギ）において、催奇形性が報告されていることから、本剤を妊婦に投与した場合、催奇形性及び／又は胚・胎児死亡を引き起こす恐れがある。

以上の理由により、重要な潜在的リスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

妊婦又は妊娠している可能性のある患者並びにパートナーが妊娠する可能性のある男性患者への使用は少ないと考えられるため、通常の安全性監視活動による情報収集に努め、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討する。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」「15. その他の注意」の項に記載して注意喚起を行う。また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

重要な不足情報

肝機能障害を有する患者への使用

重要な不足情報とした理由：

- 本剤の臨床試験では、中等度又は重度^{注)}の肝機能障害を有する患者は除外されていたが、日常診療においては使用される可能性がある。
- 母集団薬物動態解析により肝機能の程度別に本剤及び遊離SN-38の曝露量を推定した結果、肝機能が正常な患者、軽度肝機能障害患者において、本剤及び遊離SN-38の曝露量に明確な差異は認められなかった。
- 海外第I/II相試験（IMMU-132-01試験）及び海外第III相試験（IMMU-132-05試験及びIMMU-132-09試験）において、本剤及び遊離SN-38の曝露量の増加に伴い、嘔吐、悪心、下痢、過敏症、好中球減少症及び発熱性好中球減少症等の有害事象の発現割合が増加する傾向が認められた。
- 本剤を構成するSN-38は主に肝代謝により消失することから、SN-38の血中濃度が上昇する可能性がある。
- 中等度の肝機能障害患者を対象とした臨床試験を実施中である。

以上の理由により、中等度又は重度の肝機能障害を有する患者への使用を、重要な不足情報とした。

注) NCI-ODWG（National Cancer Institute-Organ Dysfunction Working Group）基準による分類

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

通常の安全性監視活動による情報収集に努め、必要に応じて新たな安全性監視活動の実施を検討するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動
電子添文の「9. 特定の背景を有する患者に関する注意」「16. 薬物動態」の項に記載して注意喚起を行う。また患者向医薬品ガイドによる注意喚起を行う。
- 追加のリスク最小化活動
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供

【選択理由】

副作用に関する情報を医療従事者及び患者に対して確実に提供し、適正使用の理解を促進するため。

1.2 有効性に関する検討事項

該当なし

2 医薬品安全性監視計画の概要

通常の医薬品安全性監視活動	
通常の医薬品安全性監視活動の概要： 副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）	
追加の医薬品安全性監視活動	
市販直後調査	
	実施時期：販売開始後 6 ヶ月間 評価、報告の予定時期：市販直後調査終了から 2 ヶ月以内
mTNBC 患者を対象とした特定使用成績調査（GS-JP-569-6813）	
	<p>【安全性検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 骨髄抑制 • 感染症 • 重度の下痢、腸炎 • Infusion reaction • 間質性肺疾患 • 肝機能障害 • 心臓障害 • 腎機能障害 • 血栓塞栓症 • 腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血 • アナフィラキシー <p>【目的】</p> <p>mTNBC 患者に対する、本剤の日常診療における安全性プロファイルを評価する。</p> <p>主要目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> • mTNBC 患者を対象として、本剤による骨髄抑制、感染症、重度の下痢、腸炎、Infusion reaction、間質性肺疾患、肝機能障害、心臓障害、腎機能障害、血栓塞栓症、腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血、アナフィラキシーの発現割合及び発現率を評価する。 • G-CSF 製剤の予防投与有無別の骨髄抑制等の発現状況について評価する。 <p>副次目的</p> <ul style="list-style-type: none"> • mTNBC 患者における本剤の安全性プロファイルを評価する。 <ul style="list-style-type: none"> - すべての重篤な有害事象及び重篤な副作用 - すべての非重篤な有害事象及び副作用

【実施計画】

- 調査期間：調査開始から最長 4.0 年間
- 登録期間：調査開始から 2.5 年間
- 目標症例数：220 例
- 実施方法：中央登録方式
- 観察期間：本剤投与開始日から 18 ヶ月とし、それ以前の観察終了は本剤中止後 30 日、新たな抗腫瘍治療の開始、追跡不能又は全死亡のいずれか早い時点までとする。

【実施計画の根拠】

- 目標症例数の設定根拠：
本製造販売後調査の予定症例数は、国内における mTNBC の既存治療レジメンの実施可能性及び使用可能性も考慮し、以下の根拠に基づき設定した。以下に示す有害事象の発現状況は、IMMU-132-01 試験及び IMMU-132-05 試験又は IMMU-132-05 試験（G-CSF 製剤の一次予防投与の有無のみ）のデータである。計画された安全性検討事項ごとの発現割合を検討し、表 1 にまとめた。IMMU-132-05 試験において、G-CSF 製剤一次予防投与の有無別の骨髄抑制の推定発現割合（Grade 3 以上の好中球減少症として示す）は、それぞれ 30.8%（8/26 例）及び 54.7%（127/232 例）であった。IMMU-132-05 試験における G-CSF 製剤の一次予防投与の割合は約 10%（26/258 例）であった。

製造販売後調査は意図的な治療介入をおこなうものではなく、治療は医師の判断で実施される。また、使用実態下で実施する調査であるため、mTNBC に関連する有害事象の管理に対して、製造販売後に G-CSF 製剤の一次予防投与がされることを保証するものではない。しかし、IMMU-132-05 試験における G-CSF 製剤の一次投与割合を適用して 220 例のうち 10%が G-CSF 製剤の一次予防投与を受け、Grade 3 以上の好中球減少症の発現割合が 30%を超えると仮定すると、Grade 3 以上の好中球減少症が 22 例中 5 例以上を、80%以上の確率で特定できる。220 例中 90%が一次予防投与を受けず、Grade 3 以上の好中球減少症の発現割合が 50%を超えると仮定すると、Grade 3 以上の好中球減少症が 198 例中 93 例以上を、80%以上の確率で特定できる。したがって、G-CSF 製剤の一次予防投与の有無にかかわらず骨髄抑制を検出するには、220 例の目標症例数は適切である。

IMMU-132-01 試験及び IMMU-132-05 試験で認められた好中球減少症を伴う重篤な感染症、重度の下痢、間質性肺疾患およびアナフィラキシーの発現割合を用いて、合計 220 例の症例数を算出した。IMMU-132-01 試験及び IMMU-132-05 試験で本剤を投与した Overall Targeted mTNBC 集団において、好中球減少症を伴う重篤な感染症が 2.7%（10/366）に発現した。本剤の投与を受けた Overall Targeted mTNBC 集団において、重度の下痢が 10.9%（40/366 例）に発現した。本剤の投与を受けた Overall Targeted mTNBC 集団において、間質性肺疾患が 0.8%（3/366 例）に発現した。本観察研究では、間質性肺疾患の発現割合が 0.75%を超えると仮定した場合、80%以上の確率で、少なくとも 1 例の間質性肺疾患を特定できるよう、目標症例数を 220 例とした。目標症

例数を 220 例とすることで、発現割合が 2.5%を超えると仮定した場合、80%以上の確率で、好中球減少症を伴う重篤な感染症を 4 例以上特定できる。目標症例数を 220 例とすることで、発現割合が 10.0%を超えると仮定した場合、80%以上の確率で、重度の下痢を 18 例以上特定できる。したがって、好中球減少症を伴う重篤な感染症、重度の下痢および間質性肺疾患を検出するには、220 例の目標症例数は適切である。また、IMMU-132-01 試験におけるアナフィラキシーの発現割合 0.9%に基づき算出した、アナフィラキシーを 80%以上の確率で検出するために必要な症例数は 179 例であることから、220 例の目標症例数は適切である。

• 観察期間の設定根拠：

IMMU-132-05 試験における mTNBC 患者の本剤投与期間の中央値は 4.86 ヶ月、平均値は 6.58 ヶ月（標準偏差 7.23）であった。投与期間が 12 ヶ月以上の患者は 13.1%、24 ヶ月以上の患者は 3.6%であった。また、安全性検討事項における各有害事象の発現時期の中央値も考慮した。したがって、本調査における本剤の安全性プロファイルを評価するために、患者の安全性を確認するために最長 18 ヶ月間の追跡調査を計画している。また、大多数の患者の安全性データを十分に把握することが可能であると考えられる。以上の事象の多くは本剤投与後の急性発現であることから、調査期間中に本剤投与患者においてこれらの事象を十分に検出するには、18 ヶ月の観察期間で十分である。

表 1. 安全性検討事項別の製造販売後調査で 80%の確率で各事象を検出するために必要な症例数

リスク	発現割合	必要な症例数*	十分であるかどうか
重要な特定されたリスク			
骨髄抑制（重篤な好中球減少症）	2.7%	177	Yes
骨髄抑制（好中球減少症）			
好中球減少症（全 Grade） G-CSF 製剤の予防投与なし	66.8%	6	Yes
好中球減少症（Grade \geq 3） G-CSF 製剤の予防投与なし	54.7%	7	Yes
好中球減少症（全 Grade） G-CSF 製剤の予防投与あり	38.5%	12	Yes
好中球減少症（Grade \geq 3） G-CSF 製剤の予防投与あり	30.8%	14	Yes
感染症（全 Grade）	53.9%	9	Yes
重度の下痢（Grade \geq 3）、腸炎	11.6%	42	Yes
Infusion reaction（全 Grade）	34.1%	12	Yes
間質性肺疾患	0.8%	201 for 1 event	Yes (1 event)

重要な潜在的リスク			
肝機能障害	24.8%	17	Yes
心臓障害	9.3%	45	Yes
腎機能障害	8.1%	52	Yes
血栓塞栓症（全 Grade）	6.6%	72	Yes
腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血	3.9%	123	Yes
アナフィラキシー	0.9%	179 for 1 event	Yes (1 event)

Source: IMMU-132-05 試験、アナフィラキシーのみ IMMU-132-01 (mTNBC) 試験

*特に明記しないかぎり、3 事象で検出する。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

- 安全性定期報告時に、安全性の集計及び検討を行う。
- 全登録患者のデータ固定時点に、全観察期間の安全性の包括的な集計を行う。

【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置、及びその開始の決定基準】

本調査の結果に基づき新たな安全性に係る懸念が確認された場合は、本剤の医薬品リスク管理計画書の改訂の必要性を検討し、必要に応じて、追加の医薬品安全性監視活動あるいはリスク最小化策を講じる。

3 有効性に関する調査・試験の計画の概要

該当なし

4 リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動	
通常のリスク最小化活動の概要： 電子添文及び患者向医薬品ガイドによる情報提供	
追加のリスク最小化活動	
市販直後調査による情報提供	
	実施時期：販売開始後 6 ヶ月間 評価、報告の予定時期：市販直後調査終了から 2 ヶ月以内
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供	
	<p>【安全性検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 骨髄抑制 • 感染症 • 重度の下痢、腸炎 • Infusion reaction • 間質性肺疾患 • 肝機能障害 • 心臓障害 • 腎機能障害 • 血栓塞栓症 • 腸閉塞、消化管穿孔、消化管出血 • アナフィラキシー • 胚・胎児毒性 • 肝機能障害を有する患者への使用 <p>【目的】 医療従事者へ適正使用を促進するための情報を提供する。</p> <p>【具体的な方法】 医療従事者へ資材を配布・説明し、本剤の適正使用を依頼する。 企業ホームページへの掲載</p> <p>【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】 安全性定期報告時及び特定使用成績調査終了時に、新たな注意喚起の必要性について検討する。 報告の予定時期：安全性定期報告書提出時</p>

5 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
副作用、文献・学会情報及び外国措置報告等の収集・確認・分析に基づく安全対策の検討（及び実行）				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
市販直後調査	該当せず	販売開始後 6 ヶ月	販売開始時より実施予定	販売開始後 8 ヶ月以内
mTNBC 患者を対象とした特定使用成績調査（GS-JP-569-6813）	安全性解析対象として 220 例	安全性定期報告提出時、再審査申請時	販売開始時より実施予定	最終報告書は全症例のデータ固定後の安全性定期報告時に含める

5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

該当なし

5.3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
電子添文及び患者向医薬品ガイドによる情報提供		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる予定の時期	実施状況
市販直後調査による情報提供	販売開始後 6 ヶ月	販売開始時より実施予定
医療関係者向け資材（適正使用ガイド）の作成と提供	安全性定期報告書提出時	販売開始時より実施予定